

茨高での3年間の学校生活の中で私が最も強く感じたことは、先生と生徒の間の距離がとても短いということです。授業準備時間や休み時間、放課後には必ずと言っていいほど、教員室の出入り口は先生への質問や過去問の添削を求める生徒たちであふれかえっていました。定期試験1週間前からは「テスト期間」という形で教員室への入室が出来なくなりますが、生徒たちは先生と上手く時間を合わせ、教室や廊下で質問をしていました。また、放課後や長期休業中に自分の好きなように選んで受けることが出来る課外授業も茨高の特徴の1つです。私は課外授業を受けられる最大まで受講していました。そんな授業や教材のプリントには先生の熱意がこもっていて学習の良い手助けとなりました。このような課外授業を基本「無料」で受けられることは茨高を進学先として選ぶ最高のメリットだと思います。

部活動は弓道部に所属していました。周りには中学弓道部から進学した一貫生やほかの中学校で弓道部に所属していた高入生もいる中、入部した当初の私は弓道に関してまだ初心者で周囲と馴染めるかが不安でした。しかし先輩や同学年の一貫生が優しく教えてくれたため、その不安もなくなりました。私の学年は入学後すぐに新型コロナウイルスの影響で休校措置が取られ、部活だけではなく学校行事も様々なイベントが例年通りの開催が出来ず、研修旅行は中止になってしまいました。しかし生徒会を中心とした、限られた行事を最大限楽しもうと奮闘する生徒たちのおかげで一貫生と高入生の垣根を越えた交流を楽しむことが出来ました。

私が思う茨高の良いところは、生徒主体の学校づくりが行われているところだと思います。先述したように、私たちの学校生活は入学当初から新型コロナウイルスの猛威に振り回され続けていました。各行事の中止や縮小、延期は時勢に沿ったやむを得ない決定だったとしか言いようがありません。しかし、そんな限られた行事の中で生徒会や各有志団体のメンバーが中心となり1つでも多くの思い出を残そうと頑張っていたのは茨高の生徒の自主性の表れだと思います。私はそんな方々と周囲の優しさのおかげで3年間の学校生活を楽しく過ごすことが出来たのだと思います。高校から入った私にとってこの学校や同級生は未知なものであり、初めは強い不安がありました。様々な中学校から集まったクラスメイトと仲良くできるだろうか、一貫生に交じっても受け入れてもらえるだろうか。特に3年次からは一貫・高入の区別のないクラスとなるため、後者の悩みがとても強かったのを覚えています。しかし、一貫生との仲を深める機会を通して、最後には一貫生・高入生という壁はほとんど感じないようになっていました。

大学では歴史地理学を専攻しようと考えていますが、1つの分野に拘らず幅広く学ぶことで物事を多角的に見る力を習得したいと考えています。また資格や研究、その他の活動についても積極的に挑戦を続け、将来は学芸員になることを目指しています。大学進学後も日々の努力は絶やさず、自分の研究がいつかどこかで誰かの役に立つことを信じて頑張りたいと思います。